

〔普及の現場から〕

“「蒜酪青年部が勉強会やっています」”

真庭農業普及指導センター

1. はじめに

「牛は飼っているけれど、牛の感覚や習性、飼料の消化吸收の仕方など基本的なことがわかっていますか？」と平成19年の総会で普及指導センターが問いかけたところ、「わからない」という回答が多く返りました。

そこで、「牛の基本を学ぼう！」と、昨年8月から月1回勉強会を始め、今年度7月で10回目を数えます。

2. 勉強会の内容

(1) テーマの選択と進め方

普及指導センターが提案したテーマ(60題以上)からアンケートで希望の多い順に実施しました。(テーマは下表のとおり)基本的には蒜酪会議室での講習ですが、資料の文章中のキーワードを空欄(□でかくす)にして、参加者各自に□に入る言葉を質問し、各自が自分の考えを述べる形式にしました。最後に参加者がこの勉強会を機会にやってみようと思うことを発表し、次回実施したかどうか確認し、その次の回で効果の確認をし、実質の経営に活かすように働きかけています。また、会員のホルスタイン農家とジャージー農家各1戸を訪問し牛舎のモニタリングも行い、ボディーコンディションスコアの見方やルーメンサイズの見方、糞スコアの見方、足の見方、皮膚被毛の見方、ネックスコアの見方等の実技を行ないました。

(2) 今年度の内容

今年度は5月8日に「繁殖と栄養の気になる関係」と題した講義を行いました。参加者の中には、酪農の専門教育を受けていない人

もいたことから、当初は栄養管理についても話す予定でしたが、卵子の発育や排卵など繁殖機能を制御するホルモン分泌など家畜生理の基本部分で今回の講義は終了しました。

参加者からは、「種付けのタイミングが早いか遅いかは何をもって判断するのか」、「排卵直後がわかるのか」など、受精に関する具体的な疑問・質問が多く出ました。これらは、日常の飼養管理の中では聞けない、また聞いてもよくわからなかったもので、参加者はこの勉強会を機に理解を深めようと意欲的でした。

そこで、7月7日には家畜保健衛生所から講師を招き、前回5月の勉強会参加者から要望の多かった繁殖の基礎について学習をしました。

内容は、乳牛の発情の状況や繁殖器官の形状等についてスライドによる説明を受けた後、ジャージー牛の子宮を見ながら、人工授精作業の様子や子宮や卵巣内部の観察をしました。

「初めて実物の子宮を見る」という参加者も多く、子宮けい管がどのような感触か、受胎はどの部分で行われるか、また、人工授精や妊娠鑑定時に授精師がどのような作業を行っているか等を具体的に学ぶことができました。

参加者からは、妊娠鑑定の際、子宮を反転させる作業等を目の当たりにして感嘆の声が上がっていました。

3. 今後の取り組み

今後は5月に中断した「繁殖と栄養の関係」の続編や、アンケートで希望が多かった「尪

コンフォートの理屈と実践」 「いろいろな添加物の効果」 「第四胃変位」等々について勉強を行い、参加者の経営を着実に改善につなげていきたいと思ひます。

H 1 9

第1回 「牛はこんなふうを感じている」

第2回 「ルーメンアシドーシス」

第3回 「牛群検定成績の見方」

第4、 「分娩前後1ヶ月に集中。あとは

5回 テキトーに流す」

第6回 「ホルスタインモニタリング」

第7回 「ジャージーモニタリング」

第8回 「ケトーシス・脂肪肝」

H 2 0

第9回 「繁殖と栄養の気になる関係」

第10回 「繁殖の基礎研修」



〈ジャージー牛舎モニタリング〉



〈子宮の実物を観察する参加者〉